

# 目次

## [概要](#)

[免責事項はなぜフッターの接続機構として表示するか。](#)

## [関連情報](#)

## 概要

処理された電子メールのフッターとして含まれているように意図されている免責事項が電子メールへの接続機構として示されているときこの資料に Cisco E メール セキュリティ アプライアンス (ESA) で設定への変更を行なう方法を記述されています。

## 免責事項が接続機構としてフッターの表示する理由

通常、添付ファイルとして表示するフッターはメッセージ ボディとフッター間にエンコード ミスマッチがあると発生します。 AsyncOS はフッターが本文に ( インラインに ) 含まれ、別途の添付ファイルとして含まれていないためにメッセージ ボディと同じエンコードのメッセージ全体を符号化するように試みます。 ただしフッターのエンコードを一致する本文テキスト フッターが本文と結合することができなければフッターがメッセージの本文に含んでいることができるように ESA CLI から促進するか、または変換するように試みるように AsyncOS を設定するのに localeconfig コマンドを使用できます。

主要な CLI プロンプトに戻り、設定への変更を保存して下さい。 それから localeconfig からリストされている次の設定を見るはずです:

## 関連情報

- [Cisco 電子メール セキュリティ アプライアンス - エンド ユーザ ガイド](#)
- [テクニカルサポートとドキュメント - Cisco Systems](#)